

第 34 回電気通信普及財団賞

テレコム社会科学部門 総評

第 34 回テレコム社会科学賞、テレコム社会科学賞学生賞に多くのご応募をいただき有難うございました。各賞についての総合的な評価をまとめておきます。

まず、テレコム社会科学賞について、今回の応募件数は30件であり前回の23件に比べて7件の増加です。今回の応募作品には博士論文を基にした著書、長年にわたる研究成果をまとめた著書が少なくなく、読み応えのあるものが多くありました。そのため応募作品のうち、学会誌等に掲載された論文の中には明確かつ鋭い分析を示す作品もありましたが、質・量を合わせた総合的な評価の結果として、最終選考の対象には至りませんでした。他方、著書としての形態ではあるものの学術書とはいえ専ら読み物として書かれた作品は、最終選考の対象外となりますが、今年はその種の応募作品は例年に比べ比較的少なかったようです。

最終選考の結果、テレコム社会科学賞 2 件、奨励賞 1 件を決定いたしました。前回は奨励賞 4 件であり、本賞の 2 件は 3 年ぶりのことです。本賞の 2 作品は、いずれもソーシャルメディア、ボーカロイド等近年多様化しつつあるユーザー発信型サービスの誕生から現在の状況、そして今後のあり方を詳細に論じた力作であり、社会的影響やビジネスの観点からの分析が高く評価されたものです。ソーシャルメディアの登場から25年が経過し、新しい分野の研究成果が著書としてまとめられたという画期的な年になったのではないかと評価しています。一方で、分析対象が新しいが故に社会科学的な分析手法が必ずしも確立しておらず、今後の発展が期待される部分が多々あることも事実です。

受賞にいたらなかった作品の中には、著者の研究者としての能力を十分に示す作品ではあるもの、研究途上であり、今後一層精進して賞に該当するような作品を生み出すことを期待したもの、情報通信分野における社会科学分野の学術書という基準からすると、体系的視角からの展開、結論の提示という点では必ずしも十分ではないもの等がありました。

今回受賞した3作品は単著ないしは2名の著者による共著ですが、複数の著者による作品であっても、単なる原稿の寄せ集めではなくて著者達の共同研究の成果であることが十分に読み取れるものは受賞の対象となり得ることを申し添えておきたいと思えます。

最後に、テレコム社会科学学生賞はテレコム社会科学賞に比べて応募作品の数も4件と少なく、漸減傾向にあります。最終選考の結果、入賞1件、佳作2件ということになりました。次回以降、個人またはグループで、学生らしい視点から執筆された作品が数多く応募されることを希望します。